

上富良野高 政策提言契機に

カントリーサイン 変更事業に参画

選考委参加 小・中にチラシ、説明等

【旭川発】上富良野町と上富良野高校（山内宣明校長）は本年度、9年度を迎える町開拓130周年の記念事業に向けて、カントリーサインのデザイン変更事業を協働で進めている。同校の「総合的な探究の時間」における生徒の政策提言をきっかけに始動したもので、デザイン決定までのプロセスに同校生徒が参画。選考委員会メンバーへの参加や発達段階に応じた周知用チラシの作成、小・中学校への出前説明など、生徒たちが積極的に事業をけん引している。

事業立ち上げの契機にできなかったことから「上メッセージ調査を実施。町内になったのは、5年度に開催 富良野らしさを象徴するデザインが必要」と考えた。ある日の出公園の「愛の鐘」のほか、町名産のホッポやラベンダー、イメッセージの発表。現行のカントリーサインの認知度を調べるため町民向けにクイズを実施 聞き取るとともに、町内の中学生を対象に町のイメージを絞り込み、絞り込

これを受けた町が6年度にカントリーサイン変更に関する町民調査を行ったところ、若年層を中心に半数を超える町民から変更を希望する声が集まった。これに伴い、町は生徒の熱意と町民のニーズを反映する形で、9年度の開拓130周年記念事業として同事業をスタートした。

町は事業の推進に当たり、子どもたちの声を随所に反映させる「3ステップ」の参画プロセスを設定した。第1ステップとして、これまで7月から8月にかけて町内の小学3年生から高校3年生を対象に「コンセプトキーワード」を募集。第2ステップとなる9月から11月には、集まったキーワードを絞り込み、絞り込

また、カントリーサイン変更事業の概要やコンセプトキーワード募集呼びかけの周知用チラシのデザインも生徒が担当。対象の発達段階に合わせ、小学生用と中高生用の2種類を作成した。

小学生用にはイラストを多用して視覚的に分かりやすく仕上げる一方、中高生用には応募フォームへ直接アクセスできる2次元バーコードを配するなど2パターンのもので用意した。また、チラシを町内の小・中学校に直接出向いて配布して事業の説明を行うなど、積極的なアウトリーチ活動を展開している。

今後は、町と高校で協議を重ねながら、さらなる事業のPR活動の展開や5年度に提言を行った当時の卒業生と現在の公募メンバーである生徒との交流会なども構想している。

事業を担当する町企画政策課の長谷川京史主幹は「今後は、事業に関する様々な意思決定において、高校生たちと対等に協議しながら協働を進める方法を模索していきたい」と、生徒主体の事業展開に期待を寄せる。

選考委員会には、前年度末の公募に応じた同校生徒10人のうち、定員の関係から5人が高校生枠の委員に委嘱された。町は定員からあふれた生徒の心意気を買ひ、残る5人も選考委員会の会議に参加することができるとしたため、生徒10人が若者の視点から審査に携わっていく。

度に提言を行った当時の卒